

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付

Tel.03-3447-2181 Fax.03-3447-2933

Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

E-mail hi-ueda@mwc.biglobe.ne.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：946 万人、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語・チェワ語

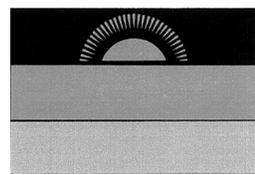
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ

為替レート：US\$1 = MK 26.5822 (8 月 1 日現在)

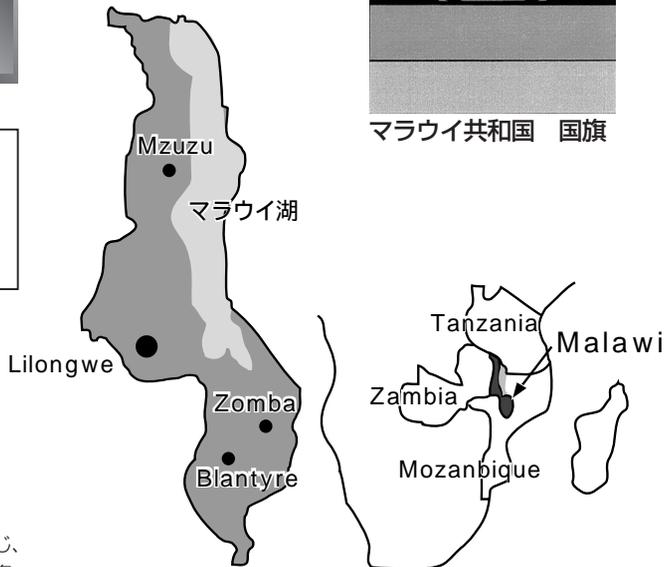
MK1 = 5.3703 円 (8 月 1 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：220 人 (8 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



KWACHA 20 号発刊を記念して 日本マラウイ協会会長 秋山 忠正

1. 遠い遠いマラウイの変

↑ 977 年暮れ、雨期の最中のマラウイを 10 日間巡回した。帰国後、50 名近い当時の日本の著名人 (現職の大蔵事務次官や、最高裁判事等を含んでいた) にマラウイの国情紹介を行ったが、大蔵省から OECD に出向し、パリでマラウイの大蔵大臣と友人になる機会を持った柏村光一氏以外、全員がこの国の存在すら知らなかった。71 年以来現在までに千名以上の青年海外協力隊 (JOCV) 隊員を受け入れているこの国も、一般の日本人にとっては、それ程遠い国であったのである。

それから 10 数年たって、マラウイは信じられない程の積極性をもって日本に接近してきた。大使館の創設、97 年には副大統領 (兼蔵相)、続いて外相が訪日し、財界に働きかけて、投資誘致セミナーまで開いている。150 年前、アラブの奴隷売買商人からマラウイを救ったリビングストンも、予期しないマラウイの積極作戦に天上で眼を見張っているかもしれない。

ただ残念ながら日本も最悪の経済状況下にあり、マラウイ関係諸氏の多大のご苦勞を憂慮している。日本マラウイ協会員並びに青年海外協力隊マラウイ OB/OG 諸氏にも何分のご支援をお願いしたい。

2. "Warm Heart Malawi"

率直に言って、バンダ政権下にあったマラウイ政府は、極めて戒律が厳しく、何かと規制のやかましい体制であった。ヤングパイオニアや反バンダ勢力に対するいくつかの伝えられる事件など、記憶から完全に消えてはいない。しかしそうした中でも一般民衆の "Warm Heart" は JOCV 隊員の心をとらえ、彼らにとってこの国を忘れ難いものにしてきた。

幸いバンダ政権は崩壊し、民主化を遂行することが出来、官民ともに "Warm Heart" の国となった。数年前、民主化運動の激流の中にあつたこの国に滞在したが、そうした中でも、この国の人々の温かさや穏やかさを身をもって体験すること

ができた。例えばバンダ前大統領の南アの病院での死後の取扱い等を見ても、この国の人々の心の温かさや穏やかさを実感することが出来る。正にこの "Warm Heart" はマラウイ国民の貴重な資産であると思う。



【98.4.28 親善視察団のひとつコマ】

3. マラウイで NGO 活動を

この国での協力隊員の活動に併せて NGO 活動を展開したいという私の願いを、先般の副大統領来訪時にも表明し、全面的賛意を得た。この場合、いろいろのケースが考えられる。

- イ) 日本の NGO のマラウイへの進出
- ロ) マラウイのローカル NGO とのジョイント
- ハ) マラウイにある西欧 NGO とのジョイント等々である。(いずれの場合もマラウイにいる JOCV 隊員との密接な連携が得策であるが。)

東アフリカ諸国 (エチオピア、ケニア、タンザニア、ザンビア、etc.) には大なり小なり日本の NGO の顔が見えるが、この国にはそれがない。バンダ政権の締め付け、また JOCV の存在が余り大きすぎたことなどが原因かもしれないが、いずれにせよ従来と一味ちがった援助活動の展開を期待したい。

《親善視察団員レポート》

初めてのマラウイ 日本マラウイ協会事務局長 竹谷 稔子

リロングウェの空港に着いたのは 98 年 4 月 26 日の夜の 8 時でした。成田を出てか

ら 30 時間…。やはり、アフリカは遠い国でした。ホテルに向かうタクシーの中から見た満天の星は見事なものでした。10 年来の夢だった "マラウイへ行こう" が、今か今かと星空を見ながら感じました。世界が近くなったこの頃ですが、普通のオバサンがアフリカに行くなんてすごいことなんです。

日マ協会でボランティアをさせていただいて 10 年以上経てば、知識として目から耳からいろいろなことが入って参りますが、それ以上でもそれ以下でもなく、機会があれば是非一度行ってみたいと考えておりました。今回、「マラウイ共和国親善視察団」の一員に加えていただき、永年の夢がやっと叶いました。

着いた翌日から行動開始。まず、故 金次克典隊員 (63-1 電気機器、89.5.4 リロングウェで交通事故により逝去) の碑に線香を手向け、交通事故防止を願って日マ協会等の募金活動により建てられた信号機のある所へ出かけました。信号機は作動していませんでした。24 時間点灯する電球はよほど心して手入れをしないと、半永久的に作動するということは、ここマラウイでは難しいことのようにです。



【信号機のそばで】

衣服を改めて外務省に向かいましたが、そこに働いている人々の近代的な様子とのアンバランスに戸惑いを覚えました。

そして視察団 10 名のうちの 8 名の仲間、志半ばで逝去なさった石井優隊員 (46-2 建築設計、72.6.25 逝去) の 27 回忌を行うべく、ムチンジの事故現場を訪ねました。27 年振りに

訪れたOB達の記憶は定かではなく、墓標がなかなか見つかりませんでした。やっと探し当ててお墓を洗い、お酒をかけ、線香を手向け、お経を唱えて涙する仲間、素晴らしい27回忌だったと部外者の私まで感動いたしました。



【故石井隊員の碑を囲んで】

さて、次はカチェレ小学校訪問です。この小学校は島根県の高田小学校からの依頼を受け、日マ協会が橋渡しをしている姉妹校です。4月28日に訪問した時は午後2時を過ぎていたため、生徒は全員帰宅していませんでしたので、翌日9時前に再度訪問しました。校長先生は前日とは違い、きちんとスーツを着用して他の先生方も皆さんきれいに着飾っているように見受けられました。

校庭は広い原っぱ。教室は電気もなく机もなく、椅子もない。勿論、水道などはなく、殆どの子が裸足です。でも、身なりはこざっぱりしているように思えました。コンクリートの床に足を投げ出して坐り勉強していましたが、1クラスは教室が無く、外で授業を受けておりました。でも、皆元氣そうで目がキラキラしていたのが印象的でした。日本語の「象さん」の歌を教えるとすぐ覚えて上手に歌ったのには、本当にびっくりしました。

日本から折り紙とか紙風船を持って行ったのですが、兜を折れるようになった子はほとんどいませんでした。何とか一生懸命に教えて何人かは出来たでしょうか。持っていった折り紙は殆ど紙飛行機になって飛んでいきました。これはすごく好評でした。



【カチェレ小学校の教室で】

久々に見た星空に感激し、湖と言うよりは海のようなマラウイ湖の波に驚き、ミルクウェイと南十字星に両手を上げ、映画のワンシーンのように湖から昇る朝日に息を飲み眺めた一週間はまたたく間に過ぎました。きれい、広い、珍しいばかりがある訳でなく、1800キロを走り抜けた街々はとても貧しく見えました。そして、作物等を見ることもなかった道の両側の野原には痩せた牛と山羊が放たれており、それは少し悲しげな風景に思えました。第2の故郷マラウイを訪れた同行の方々はどうに思われたのでしょうか。

私はほんの少しだけ本物のマラウイを知ったように思いますが、一つの国を知るのなかなか難しいことのように思えます。いつまで日マ協会のお手伝い出来るかわかりませんがあと2～3年はやっ

てみよう、これを書きながら考えております。

《トピックス》

国情セミナーと「シマを食べる会」開催

日 本マラウイ協会主催のマラウイ国情セミナーと「シマを食べる会」(懇親会)が、同国独立34周年を記念して7月4日(土)、東京・広尾の青年海外協力隊広尾訓練研修センターで開催された。

国情セミナーは午後2時から2階の大会議室で始まり、駐日マラウイ国臨時代理大使のThoko M. Banda氏が講師として約1時間にわたって、最近のマラウイ情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。

午後3時過ぎからは、会場を1階の食堂に移し「シマを食べる会」が行われた。会場には国情セミナーの参加者をはじめ、臨時代理大使ご夫妻、大使館スタッフ並びに御家族のご参加も賜り、参加者は50名を超えた。「シマ」の原料は今年4月25日から5月4日にかけてマラウイ協会から派遣した「親善視察団」が持ち帰ったもので、調理は大使館職員夫人によって行われ、参加したOB/OGは本物のシマの懐かしい味を楽しんでいた。

また、視察団が持ち帰った木彫りや、チョンベティーなどを景品にくじ引き大会が行われ、当選者は歓喜にわいた。

最後に来年の再会を約して参加者一同で記念撮影を行い、盛会のうちに散会となった。



【懇親会での集合写真】

国情セミナーの主な内容は次のとおり。

- (1) 昨年9月末、副大統領が来日。「副」元首級で初めて天皇陛下に会った。天皇陛下はマラウイの協力隊員が増えていることに言及し、日本との良好な関係が続くことを願われた。
- (2) また、副大統領は日本でははじめてのマラウイ投資プロモーションセミナーに参加。日本の企業にマラウイへの投資を呼び掛けた。国会議員とともにJICA、JETRO、OECFの総裁、マラウイ協会の会長とも会談した。
- (3) 3ヶ月後に外務大臣が来日し、JICA、JETRO、OECF等の有力者と会談した。
- (4) マラウイは今、医薬品不足が深刻、日本政府は医薬品と救急車115台を供与した。
- (5) 大分県の平松知事が提唱している一村一品運動にマラウイもならい、現在大分県と接触中。
- (6) NGOの一つとして笹川財団の活動を受け入れ、賞書を締結したところ。
- (7) ODAベースではないプライベートセクターの日本の会社ともエネルギー開発、インフラ整備などの協力が始まりつつある。
- (8) 島根県の高田小学校とマラウイのカチェレ小学校の交流がマラウイ協会の協力を得ながら

始まった。

(9) 学校に行ける生徒が少なかったが、小学校の無料化などにより、94～97年までに320万人の生徒が通えるようになった。しかし、今度は教師の数が足りなくなっている。

(10) 北部のムズズに大学が出来た。5～10年後には日本へ留学生を送れるようにしたい。

(11) 北部のムズズに18ヶ月以内に新病院が完成する。現在は北部の人は病気の程度が大きいと中部まで出てこなければいけないが、それが緩和される。

(12) エイズの問題は深刻。前政権は積極的に予防・啓蒙キャンペーンを行っていなかった。現政府は必要な対策をとっており、3～5年後には患者数は減る見込み。

(13) 昨年はエルニーニョ現象で天候不順の為、農作物の生産量が減少した。今年は増産できる見込み。天候はコントロールできないが、最善をつくす。

(14) 昨年12月、バンダ前大統領が亡くなった。政治的には現政権と対抗関係にあった方ではあったが、何と云ってもマラウイを独立に導いた「建国の父」であり国葬とし十分な礼を尽くした。

(15) 今後の主な予定

- ・来年第2四半期に大統領、国会議員総選挙
- ・今年秋、東京でのアフリカ開発会議に出席
- ・今年10月、大阪でJETROとプライベートセクターの投資促進のためのイベントを開催

9年度3次隊、10年度1次隊マラウイへ

青年海外協力隊の平成9年度3次隊マラウイ派遣隊員一行が98年4月に、また同平成10年度1次隊一行が7月に成田空港から出発した。既に現地訓練を終え、各配属先での活動が始まっている。今後の活躍が期待される。



【9年度3次隊・出発の朝、TCAT近くのホテルロビーで】

《マラウイ短信》

の欄のニュースはデンマークの「Malawi News Online」から抜粋し要約したものです。各項目の冒頭の日付は同ニュースの配信日を示しています。

日本マラウイ協会は同紙と配信契約を結び、記事の要約・掲載について許諾を得ています。記事の著作権は同社に帰属します。

バーレンと外交関係樹立 [98年6月24日号]

マラウイ外務省は6月12日、バーレンと外交関係を樹立したと発表した。同省は、外交関係樹立は両国の貿易を発展させるのに役立つと述べた。バーレンはサウジアラビアとカタールに接

する石油の豊富な人口 60 万人の君主国で、マラウイのビジネスマンに潜在的な市場を提供する。

新病院完成 [98年7月17日号]

南アフリカのガーデン・シティ・クリニックのマラウイ版とも喧伝される 60 床の新私立病院が、間もなくブランタイアに完成する。しかし、当局者はまだなすべきことがたくさんあるとして、予定通り来月には開院しない。

当局者によると、この私立病院は国内の医師等の専門家を雇い、そうした専門家を雇えない場合のみ外国の援助を求めているという。同病院への出資をコントロールしているナショナル保健会社筋によると、1 億 2000 万クワチャ (昨年建設が始まった時、800 万米ドル) の設備は、後に年間 1 億クワチャの外貨の節約につながるという。

同病院が完成すると、ブランタイアのクウィーン・エリザベス中央病院、リロングウェのリロングウェ中央病院に次ぐ 3 番目に大きい病院となる。

外交拠点を閉鎖 [98年7月17日号]

マラウイ外務省のゼディ・メディ首席事務官は 7 月 10 日、今年末までに外国の外交拠点のいくつかを閉鎖し、残りの拠点も人員を削減すると述べた。

閉鎖する拠点としてナイロビ (ケニア) を上げたが、それ以外の具体的な拠点名は上げなかった。しかし、政府の非公式筋は、それらしい候補として東京とウィンドフック (ナミビア) を上げている。閉鎖されるとマラウイの残りの外交拠点は、南アフリカ・ヨハネスブルグの総領事館を含めて 13 になる。閉鎖の理由は資金不足だという。

マラウイは現在、20 以上の外交拠点を持っている。

《投 稿》

インターネットホームページ World Wildlife Gallery について 平成 2 年度振替 電子機器 神田 君夫

「World Wildlife Gallery」というホームページは、私が今までに日本国内外を歩き回って撮り貯めた野鳥や野生動物、風景等を紹介したものです。現在まだ作成途中ですが、ここで最終的に紹介する予定の国は、マラウイ、ケニア、タンザニア、ザンビア、南アフリカ、マダガスカル、オーストラリア、インド、エクアドル、コスタリカ、そして、日本です。今のところ完成しているのは、私が青年海外協力隊員として最も長期間に滞在したマラウイだけです。順次、日本、コスタリカ、マダガスカル…と完成させていく予定です。ここでは、マラウイのページについて説明させていただきます。

このマラウイのページは、私が青年海外協力隊員として滞在した、1990 年 8 月から 1992 年 8 月までの 2 年間に撮り貯めたマラウイの自然に関する写真の一部とその撮影地を紹介したものです。

まず世界地図から始まり、その中のマラウイまたはマラウイ国旗をクリックすることによってマラウイと言う国の一般的な紹介のページに入ります。次に、このページの拡大マラウイ地図中の番号または地名をクリックすると各地の情報ページに移動する

仕組みになっています。ここで紹介しているマラウイのワイルドライフウォッチングスポットは、1. ニイカ国立公園 2. カスング国立公園 3. マラウイ湖、4. リウオンデ国立公園 5. チルワ湖 6. ムランジェ山、7. レングエ国立公園の七ヶ所です。各地の情報ページには、その所在地、アクセス方法、宿泊施設、その地域の鳥、動物、植生などの情報と写真を掲載しました。写真については現在のところ 6cm × 9cm 程度の大きさですが、近々、16cm × 23cm に拡大した写真を見られるようにする予定です。

隊員 OB の皆さんには、このホームページを見ていただいてマラウイを懐かしんでいただくのもよし、まだマラウイに行かれたことのない方々には、マラウイをイメージしていただくのも良いと思います。

写真に関する問合せ、ご意見、ご要望などございましたら次のアドレスにメール送付をお願いします。

E-mail: wwgkanda@osk2.3web.ne.jp

または、QZ104766@nifty.ne.jp

ホームページ URL: <http://www2.osk.3web.ne.jp/~wwgkanda/>

マラウイ関連の インターネット Web について 63 年度 1 次隊 無線通信機 河野 進

(E-mail: kouno@eva.hi-ho.ne.jp)

本紙で度々紹介していますように、マラウイでもインターネットプロバイダー (接続事業者) がサービス提供を開始し、また世界のどこにいても簡単にインターネットを通じてマラウイに関する情報が得られるようになりました。その詳細については、No. 16 (96.5.10 発行) で上田理事が「インターネットとマラウイ」という記事の中で書いていますが、その後 URL が変更になったり、最近新たに開設されたマラウイに関するホームページがいくつかありますので、以下に既に掲載したものも含めて紹介いたします。

●マラウイネット ホームページ

<http://www.malawi.net/>

97 年 7 月にマラウイ郵便電気通信公社系のインターネットサービスプロバイダーがサービス開始と共に開設。マラウイネットの紹介、マラウイの紹介、旅行情報などの他、マラウイ国内で発行されている新聞「The Nation」の web 版 (<http://www.malawi.net/thenation>) 等もあります。マラウイ全国地図のページがあり、地名をクリックすると写真や説明が出てくるページもあります。サーバーはアメリカにあり、マラウイのプロバイダーと 2Mbps の回線につながっていると説明されています。

●非公式マラウイ ホームページ

<http://www.math.unh.edu/~llk>

アメリカの大学に留学している Llosten Kaonga さんというマラウイ人が作っているページです。97 年にマラウイネットのホームページが開設されるまでは、事実上、マラウイを代表するホームページでした。冒頭にはマラウイの国章を配置し、次に「このページは過去 / 現在 / 未来のマラウイ政府の公式ページでもない、特定の政党を代表するものでもない。」と書かれています。リンクも豊富で日本マラウイ協会をはじめ、世界各国の色々なマラウイのページに飛んで行けます。

●日本マラウイ協会ホームページ

<http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

(社) 青年海外協力協会 (JOCA) ホームページのサーバースペースの一部を借り、97 年 4 月 4 日に開設しました。現在、当協会のページは協会紹介 (英語版あり)、国概要、刊行物、衣食、家庭料理、 Chew 語、インターネット、アフリカ料理店、お知らせの 9 項目に分かれています。今後、情報を追加していくとともに、お知らせのページではイベントの予告や、報告なども随時行っていますので、ご愛顧をお願いします。

●駐日マラウイ大使館 ホームページ

<http://www.teleserve.co.jp/embassy/embassy/malawi/>

98 年 7 月に開設され、駐日マラウイ大使館の紹介の他に、マラウイ関連のいろんな情報が紹介されています。マラウイの風物などの写真を青年海外協力隊 杉下 OB (7-2 医師、ゾンバ) が提供しています。日本マラウイ協会のページ等へのリンクもあります。

●その他

[マラウイ国情関連のホームページ]

- ・ JICA (国際協力事業団) 任国情報 - マラウイ
<http://www.jica.go.jp/J-info/NINKOKU/2430/Index.html>
- ・ Malawi Country Profile
<http://www.odci.gov/cia/publications/95fact/mi.html>
- ・ Tripod
<http://members.tripod.com/~malawi/>

[マラウイ旅行関連のホームページ]

- ・ サファリ・溪谷ツアー紹介
http://www.infohub.com/TRAVEL/SIT/sit_page/Malawi.html
- ・ 旅行会社紹介
<http://spicerack.sr.unh.edu/llk/pahomes/ndege.html>
- ・ フィリップ・ブリッグスさんの旅のページ
<http://pubweb.web.co.za/mg/africa/malawitop.html>
- ・ エアマラウイ
<http://www.africaonline.co.ke/airmalawi/>

[アフリカ関連ニュースのホームページ]

- ・ AfricaNews Online (Panafican 他)
<http://www.africanews.org/>
- ・ The Africa News Server - Malawi
<http://www.africanews.org/south/malawi/>
- ・ News: Eye On Africa
<http://www.webperfect.com/afrinet/news.html>
- ・ AFRICA ONLINE: NEWS STAND
<http://www.AfricaOnline.com/AfricaOnline/newsstand.html>
- ・ The (Zambia) Post
<http://www.zamnet.zm/zamnet/post/post.html>

[青年海外協力隊 マラウイ OB のホームページ]

- ・ 澤野 新一郎 OB (61-2、写真) のホームページ
<http://www.netpassport.or.jp/~wssawano/>
- ・ 大野 忠伸 OB (63-2、電子計算機) のホームページ
<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/7091/>
- ・ 神田 君夫 OB (H2 振替、電子機器) のホームページ
<http://www2.osk.3web.ne.jp/~wwgkanda/index.html>

[ニアサネット]

これはホームページではありませんが、NYASANET (マラウイの前の国名 Nyasaland から取ったと思われる) という電子メールネットワークです。これは、1 人がメッセージや意見をメールセンターへ送ると、自動的に同じ内容が全会員へ配信され、それについて誰かがメールセ

ンターへ返信すると、それも全会員へ配信されディスカッションすることができるシステムです。ディスカッションだけでなく、世界各国に散らばっているマラウイ人や関係者にいろいろな情報を求めたり、またそれを伝える機能を持っています。使用されている言語は英語で、参加は無料です。メンバーになるには listserv@maelstrom.stjohns.edu へ、「subscribe nyasanet firtnsname(あなたの名前)lastname(あなたの名字)」を送ればOKです。メンバー登録が完了し、他のメンバーへメッセージを送るには、nyasanet@malestorm.stjohns.edu へ電子メールを送るシステムとなっています。毎日5～20通くらいの配信を受け、中にはマラウイから定期的にニュースを送っている人もいます。

読者の皆様でも、マラウイに関するインターネットの情報を KWACHA 編集部までお寄せください。

日本マラウイ協会 平成10年1～6月活動概況

(1) 島根県高田小学校とマラウイ・カチェレプライマリースクールとの交流に対する支援

【これまでの経緯】

97年夏、小玉OB(H6-3 薬剤師)が、島根県高田小学校にて生徒を対象にマラウイの国情、特に医療分野における問題等についての講演を行なった。講演後、生徒間にマラウイで困っている方々の為に何か援助をしたいという気運が高まり、地域での募金活動を行なった。

同校では、マラウイとの交流、支援をどのように具体的に進めてよいか思案している旨を日本マラウイ協会へ相談。協会例会にて、単なる物資の援助活動ではなく学校間交流が望ましいと考えられる事、協会が大使館経由本国への取り次ぎを行なってもよい事を集約し、高田小学校へ連絡。同校より了承され、大使館に対し高田小学校長の手紙を添え、相手校の選定を依頼した。

【1月】マラウイ大使館より当会あてに「高田小学校と交流を深める相手校としてチンテチェにあるカチェレプライマリースクールを選定した」旨の連絡が入る。当会からは高田小学校に対し「カチェレ小学校に対しての学校紹介のビデオレター(又は写真)と手紙」を当会宛てに送付して戴ける様、依頼した。

【3月】高田小学校から届いた手紙、写真およびビデオをひとまとめにして当会より DHL にてカチェレ小学校へ発送した。

【5月】貝塚専務理事をはじめとするマラウイ親善視察団が視察の際にカチェレ小学校を訪問。その時撮影したビデオを編集し、写真および学校側より預かった手紙等と一緒に高田小学校へ発送した。

【6月】高田小学校へ展示用のパネル、ビデオテープ等の貸出しを行う。また、先方より、「10月15日の授業参観の際、大使館の方に高田小へ来てもらい、話をさせて頂きたい。」との要望あり。当会としては実現に向けての協力は前向きに行ないたいという意見を集約した。また、マラウイの歌を教えて欲しいとの要望があったので、国歌のテープと楽譜を送付する事とした(7月初旬発送済)。

(2) 一時帰国したジコモ副編集長 栗原隊員との交流

【1月】栗原隊員(H7-2)と貝塚専務理事、河野理事、中川理事並びに斎藤OB、渡辺OB、松尾OG及びJICA岩本職員と懇談。

『マラウイ共和国旅行ガイドブック』へのジコモ誌記事の転載等に関して、文書にてジコモ編集委員会より当会に対し非常に好意的な返答を戴くと共に、ジコモ編集委員会から今後も当会への協力を惜しまない旨が述べられた。

(3) 駐日マラウイ大使バレタ氏離任

【3月】駐日マラウイ大使であるバレタ氏が諸事情で離任。氏に対し秋山会長及び貝塚専務理事が表敬訪問の上、記念品を手渡した。



【社行会にて】

(4) マラウイ親善視察団社行会

【4月15日】広尾訓練研修センターにて、4月25日～5月4日に派遣するマラウイ親善視察団ならびにJICAマラウイ事務所新所長として赴任する村上博氏の社行会を開催した。

(5) 第16回通常総会開催

【5月9日】広尾訓練研修センターにて第16回通常総会が行なわれた。第1号議案の〈平成9年度事業・決算報告に関する件〉ならびに第2号議案の〈平成10年度事業計画・予算案に関する件〉は満場一致で承認。第3号議案の〈役員一部改選に関する件〉では竹内氏(51-4)が監事として新たに加わる事となった。

(6) チェフ語辞典改訂版作成の検討

【5月】栗原隊員(H7-2)より、マラウイにて販売されているチェフ語～英語辞典を2冊、当会に寄贈して戴く。

【6月】定例会で話し合ったこととして、

- ・7月例会において企画・立案の検討を行なう。
- ・概略案としては今年度末までに原稿作成し、来年度中に発行を予定する。
- ・作成費用等については関係機関との協力で補い、出版することを検討する。

日本マラウイ協会情報

■日本マラウイ協会の刊行物

- (1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 A4版 40ページ 1部 1,000円(送料240円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版 アフリカの暖かき心湖とサバンナの大地へ B5版 108ページ 1部 1,200円(送料310円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座宛に、代金および送料をお送りください。その際振込用紙通信欄に「xxxx xx 冊希望」と明記のこと。なお「チェフ語(マラウイ国語)辞典」については現在在庫切れのため近く改訂版を発刊することを計画しております。

■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方がおられましたら、あわせてご連絡ください。

■日本マラウイ協会 月次定例会合

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日 18:30～に、東京都内(通常はJOCV広尾訓練研修センター1F OB連絡室)で、月次定例会合を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは、下記の当協会までお問い合わせください。

■日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24 青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会
TEL:03-3447-2181 FAX:03-3447-2933 E-mail:hi-ueda@mw.c.biglobe.ne.jp

●三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739
口座名義人:日本マラウイ協会 名誉会長 卜部敬男

●郵便振替 00190-7-13125 加入者名:日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。